

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームおだやか	評価実施年月日	平成20年3月
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	工藤 美果	記録年月日	平成20年3月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	その人らしい生活を送るために必要と思われる理念を事業所の想いを取り入れながら分かり易い言葉でつくりあげ、玄関などに掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	出勤時に理念の確認を行い、毎日の生活の中で実践できるように心掛けている。また、職員同士が理念から外れるような言動が見受けられた場合は注意できる環境にするよう努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には入居時にご説明をし、地域の方々には町内会集会などでホームの理念や説明を行ったり、各家庭を訪問し理解されるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホーム周辺で家庭菜園をされている方が多いため挨拶を交わしたり、時にはその収穫物を頂くなど、ご近所の方々には良いお付き合いをしていただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の農家さんからは農産物を、漁師さんからは海産物を、アウトドアが趣味の方からは山菜や川魚を差し入れていただく機会があり、多く頂いた場合は更に物々交換するなどして地元の方々と交流している。また、地域のお祭りの参加、近隣の小学校の児童が遊びに来たり、カラオケや民謡のチャンピオンがお誕生会に来て歌って下さったりと地元の方々と交流することに努めている。	
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	上記のお付き合いを通して関わり合いのある方々から高齢の方の相談を受けることがあり、可能な限りお役に立てるよう取り組んでいる。	○ 介護用品の相談を受けたり、通院介助の支援や担当ケアマネージャーさんへの情報提供をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>会議でサービス評価の意義を職員全員に伝えている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる為の努力をしている。</p>	
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議を実施していない。</p>	<p>○ 第1回目の実施に向け努力する</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村の関係各課と連携を取り、担当者に勉強会を依頼したりしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>全職員が学んでいるとは言えないが、管理者や数名の職員は権利擁護に関する制度を勉強し、関係者と制度利用に向けて検討している。</p>	<p>○ 全職員で勉強する機会を設けたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎月の会議の場で虐待がないか確認をしており、研修に参加した場合は内容を報告している。また、新規職員に関しては、管理者はじめ先輩職員が指導している。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>初回面談時に説明をし、必要とあれば納得いくまで時間をとり説明しており、契約時也十分に時間をとり、経営理念やケアに対する考え方や取り組み、また退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の言動からその思いを察する努力をし、入居者の意向が反映できるように心掛けている。また、会議で入居者の不安や意見を話し合い職員共通の意識として位置づけている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時に日頃の状態を説明しており、突発的に何かがあった場合はお電話で説明している。また、ホームでの様子と金銭の報告はまとめた記録を月初めにご送付している。職員の移動は新聞やお手紙を活用している。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情受付窓口を設けており、国保連のポスターも掲示している。また、管理者自らのご家族に対して話しやすい雰囲気を中心掛けており、職員も面会時日頃の利用者様の様子を説明し、意見、不満がないかをお尋ねしている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営者や管理者は日頃からコミュニケーションを取るよう心掛けており、職員からの意見や提案は出来るものは取り入れ、出来ないものは出来ない理由を説明している。</p>	○	職員からの積極的な意見や提案があがって来るようになってきた。
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>その時の状況に応じて必要な調整をしている。</p>	○	入居時や看取り時、突発的な変化があったときなど、状況に応じて職員の配置を調整している。
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>管理者が異動や離職をする場合は最低1ヶ月前に届出を出すことになっている。その間新人と一緒に行動して早く職場になれるような体制にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の開催場所や日程により参加できる職員に偏りが出来るので参加できない場合は参加した職員から伝えるようにしている。</p>	<p>参加に偏りが出来ないよう研修の機会を計画的に取り入れるようにする。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会が主催する研修や懇親会、地域包括センター及びケアマネ研修などに参加している。また、他グループホームとの情報交換をし、勉強会などを計画している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務中でもその時の状況に応じて気分転換を図ってもらったり、職員が話しかけ易い雰囲気や日常を接している。また、休日に関しても希望日を聞き入れるなどして勤め易い環境となるよう努力している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>頻繁に現場に来る機会を設け、個別職員の業務や悩みを把握できるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談で生活状況を把握するよう努めるとともに、ご自身の心身の状況に応じた対応をし、ご自身、職員双方が誤解無く受け入れられるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでのご家族の思いなど、経緯について聴き、訪問や電話などの回数を重ねて信頼関係を築くように心掛けている。また、金銭面や今後のことなどの心配事は解消できるように説明を重ねている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時ご本人やご家族の思いを、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行い、必要時は行政や他の事業所などに相談をするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にはホームの見学、職員の訪問などを行い、入居後は出来る限りご家族に訪問やお電話などを依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援する側、される側という意識を持たず、協働するようにしている。また、得意分野であろう事や経験してこられたであろう事柄に重点をおき、知識や知恵を伝えていただくような場面作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が不安にならないように情報共有に努め、手紙や電話、来訪時に積極的に声掛けし職員は家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お誕生会にお誘いしたり、外泊や外出の規制が無い事をご家族に伝え、安心して良い関係が継続できるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居様が大切にしてくられたもの(仏壇、写真等)はご自身のお部屋で今まで通り大切にいただき、また、お友達のお宅への訪問や、通院していた病院、行きつけの美容室などにも出掛けることが出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	みんなで楽しく過ごすことが出来る場を作ったり、入居者様同士の個性を活かすようにし、孤立しがちな入居者様には積極的に声掛けを行い一人ですごしても寂しくないようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後もご本人やご家族が納得できるような支援のあり方を検討しており、ご家族来訪時にご要望にこたえるべく随時ケアマネージャーが相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望を反映して介護計画を作成している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にある程度確認するようにし、落ち着いてから少しずつ尋ね、新情報に関しては職員と共有できるように記録に残すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の記録から生活パターンや趣味嗜好、日課にしている事と役割や楽しみなど一人一人について把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心として、その人らしく生活できるように本人、家族、必要な関係者と話し合いをし、それぞれの意見やアイデア、要望を聞き、日々の申し送りや職員とのやり取りから課題を検討したうえで介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングを行い、プランを見直すと同時に心身の状況が変化した場合など必要に応じてケアプランを変更し職員と共有する。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や実践したケアについて個別に介護記録に残し、申し送りをしながら情報を共有し実践しており、必要に応じてケアプランを変更し職員と共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族のその時々々の要望の把握が遅くならないようにし、今までに経験の無い事柄や事例の少ない事柄に対しても臆することなく柔軟な姿勢で支援出来るよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて各関係機関に協力を要請し支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人やご家族の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネと連絡を取合い、必要時紹介できるようにしているが、まだ該当はない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者様の意向や必要性に応じて地域包括支援センターや社会福祉協議会と共同している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医による適切な医療を受けられる支援はもちろん、以前からかかりつけている病院への通院の介助を行っている。また、ご本人やご家族の希望により必要な病院を探す支援もしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	道立江差病院や渡辺病院と連携をとり、状態変化の際は連絡相談をするようにしているが、遠方のため定期受診はしていない。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護職員は確保できていないが、状態の変化に応じて地域の看護職に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	状態変化や看取り時には地域の看護職を確保し、かかりつけ医と連絡相談しながら必要な医療活用の支援をしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院をすることになった場合は、一日も早く退院できるように情報交換を行いながら、ご本人、ご家族が安心して治療に専念できるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時ご家族と話し今後の方針について検討している他、状態変化があった場合などの連絡先や病院などは細やかな打ち合わせを随時行っている。また、新たな情報などは職員全員で共有しご本人やご家族が満足できるよう努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を反映しながら主治医や病院と連絡、連携をとり、出来る限りの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居室へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えによるダメージを軽減できるよう、ご本人やご家族、各関係機関と話し合いや情報交換に努め、必要に応じて職員を配置している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>毎月の会議の場で職員の意識向上を図るとともに、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底するように心掛けると同時に、各記録もご本人やご家族がいつお読みになっても失礼の無い文面にしたうえで保管している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様の思いや希望を表せるように職員が声掛けをしたり、ご本人の日常の言動から探し、一緒に出来るように努めている。また、散歩や外出は自由に出来るようにしているが天候状態や気象状況により困難な場合は納得できるように説明をしご了承いただいている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側のマニュアルにより入居者様のご希望にお答えできないということが起こらないようにし、お一人お一人に合わせた生活ペースを大切にした上で、その日のお天気やご気分に合わせて支援をしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者様やご家族様の意向に沿った訪問美容室の依頼や、通いなれた美容室への外出などの支援をするとともに、行事や外出時はお化粧の習慣があったり興味があったりする方はお化粧をされている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員が用意したメニューに利用者様が縛られることのないようにし、地元の旬の食材を積極的に取り入れている。また、準備や片付けも出来る限り一緒にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様の個々の嗜好に合わせて食事やおやつを提供するようにしているが、医療面からの指示がある場合には限度を超えないように対応している。また、お酒は希望があり、医療面で問題がなければ提供するが、タバコに関しては全館禁煙となっているため入居をお断りするか禁煙していただいている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを理解し、声掛けするとともにトイレで排泄できるように支援している。また、排便困難な状況と思われる行動があった場合は水分補給や食物繊維を多く摂取するための支援、排便を促す運動やマッサージをしている他、かかりつけ医に相談しお薬でのコントロールをしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は曜日や順番に関しては職員の都合で決めてしまっているため、入浴時間や内容でご満足いただけるよう努めて支援している。	○	曜日や時間帯について検討する。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様個々の生活パターンに合わせて睡眠できるようにし、生活リズムが一定になるように支援しているが、夜間寝付けない入居者様に対しては原因を探るとともに安心できるよう添い寝やお話、暖かい飲み物の提供などをして対応している。	○	無理に眠らせようとはせず、気の向くままに過ごすことで落ち着くことがあるため、安全面に配慮しながら健康状態が悪化しないように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行事やイベントの他、日常生活の中で役割を見つける支援を行っている。一日の生活の中にメリハリをつけて充実して生活出切る様にしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さは理解しており、お金を所持したり使ったりする能力がある方には出来る限りの支援をしているが、お金を所持することから放れた方から能力を引き出すことは難しい。	○	どんな支援の方法があるか勉強したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は外出の機会が減るものの、暖かい時期はご本人の希望に沿って個別に買い物やお散歩、ご家族への面会などに出掛ける支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者様が行ってみたいところは普段は行けない珍しいところよりもご家族やご友人の訪問を希望される事が多いため、出来る限り支援しているが、珍しいところにも興味湧かないか旅行のチラシや本を使って探っている。	○	お花見や日帰り温泉ツアーなどを催しているが身体機能の低下などから遠出が難しくなったり参加が困難な方が出てきているので、個別にできるよう検討したい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	各居室に電話の設置は無いが、入居者様のご希望に応じていつでも利用できるようにしている。プライバシーに関してはコードレス電話で取り次ぎ、自室で長電話が出来るようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問に制限を持たず、いつでも来訪していただけるように雰囲気作りをするとともに、入居前の説明や日頃の声掛けに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の会議の場で自覚しない身体拘束が行われていないかなどの点検をしている。また、日常的に疑問に思ったことはその都度対応できるように管理者が働きかけている。	○	薬物での行動抑制などに関しては主治医の処方によるため、医療機関への確かな情報提示をするとともに、処方された薬物の定期的な見直しが出来るように主治医に働きかけている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上玄関に鍵をかけているが、日中は施錠をしていない。入居者様の居室も施錠はせず、今まで施錠しなければならない理由がなかったため実施していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様のプライバシーに配慮し、イベント時や緊急時でも職員が不在にならないようにして安全を確保している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様の状況を勘案し、保管すべき物品と判断したものについてはご本人やご家族に納得していただいた上で管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月の会議の場で事故防止について話し合いを行い、事故があった場合は事故報告書を作成し、申し送りや会議で周知しているとともに繰り返さないように原因を追究し対策を練り、今後に生かしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事務室に緊急時連絡網と入居者様個別の緊急連絡先を掲示しているほか、救急マニュアルを目の届きやすい場所へ置き対応している。	○	消防などに協力を要請し初期対応や応急手当の勉強会をしたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練を行ったり、地域の消防団の方々に協力を得られるよう働きかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族には入居時に基本的に自由とその人らしい生活が継続できるように説明するとともに、安全や健康には十分配慮をすることに伴うリスクについて説明をしている。	○	初回面談時をはじめ、来訪時など入居者様の変化に合わせ随時お話ししている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックの記録や顔色、呼吸、活気などを常に観察している。体調不良の兆候が現れたりした場合は職員が情報を共有し、医療連携やご家族にだれでも連絡できるようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の目的や副作用などが理解できるように処方箋をファイルしており、内服薬に変更があった場合はその理由などを含め介護記録や申し送りノートに記載し、職員が内容を把握できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因を調べるとともに、飲食物の工夫や運動・マッサージに努めている。	○	ゼリーなどは人気が高いため寒天を使って手作りゼリーやサラダを提供したり、最近では飲み物にオリゴ糖を混ぜることで効果が見られている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアはもちろん、協力医療機関である町立上ノ国歯科診療所の往診により口腔内の清潔や健康管理に努めている。	○	歯科受診を拒否していた入居者様も往診していただくことで治療を受けられるようになった。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定期受診によりお一人お一人の栄養状態の確認をし、特に変化があった場合はその方だけの食事をご用意したり、個人の状態や力、習慣に応じ調理法を変えるなどしている。食事・水分の摂取量は毎日の記録に記載している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し職員が自由に閲覧できるようにしている。入居者様お一人お一人に合わせた入浴や排泄を実施し、手洗い、ウガイの徹底を行い職員が媒体とならないようにしている。	○	来訪者にもご理解いただけるよう説明をし、手洗い、ウガイにご協力いただいている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所を利用する職員や入居者様の清潔保持とゴミ箱や雑巾、まな板などは塩素系漂白剤を使用しての除菌、また、排泄や移動介助後の手洗いや除菌などを周知徹底している。食材に関しては出来るだけ在庫を置かず、冷蔵・冷凍庫は一時保管的に使用している。	○	お店から購入したものをその日もしくは翌日中に使い切るようにしている。また、北海道の大自然に恵まれているため、職員や近隣の方からその時々旬のものをいただくことがあり、新鮮なうちに提供することができている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や不安、失敗が続くことのないよう、日常生活から状況を確認し、無理に押さえつけることの無いよう原因を解明し適切な支援を行う。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周りの駐車スペースを利用し、テーブルやいすを出しておやつを食べたり日向ぼっこをしたりしている。</p>	○	<p>建物の裏に畑を作り、真ん中に手摺の付いた廊下を設置したところ、多少歩行が困難であっても車椅子を使用しても畑仕事を楽しんでいただけた。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>毎日ある</u></li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ <u>利用者の1/3くらい</u></li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての家族</u></li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ毎日のように</u></li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>

運営推進会議を実施していないため回答できません。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 常に入居者様を中心に考え、その人らしく生活していただくためのサービスをどのように提供できるか、職員間で日々話し合い、会議の場でもそれぞれの考えや思いを活発に交換できるような人間関係を作っています。健康面では協力医療機関でお向かいにあります町立上ノ国診療所のご協力をいただき、また、経営母体であります四海堂から柔道整復師、鍼・灸・あんま・マッサージ・指圧師による東洋